

平成30年3月20日

平成29年度 第62回「卒業証書授与式」に参加して

平成30年3月16日 {金} [中野十中 於体育館 午前10時~12時20分]

同窓会 渉外担当副会長

平成30年3月16日「平成29年度第62回卒業証書授与式」が開催され8期生Kと1期生Oの2名で十中最後の感動的な授与式に出席いたしました。

前日の3月15日に「同窓会入会式」が行われ、8期生Kと9期生Yの2名が出席し、新たに75名の方が同窓会に入会されました。

「卒業証書授与式」では、弓田 豊校長が75名全員に一人・一人に言葉をかけて、卒業証書が手渡されていたのが、印象的でした。卒業生総数は、11,560名となりました。

特に、印象的だったのは、「別れの言葉・卒業生合唱」でした。

何人もの卒業生が、担任の先生に感謝の気持ちを思い出しながらお伝えしている場面
給食の先生、事務の方へ、机などの修理でお世話になった方への御礼など感謝の気持ちが表れていました。先生方も涙していました。

式次第では、中野区 副区長 川崎 亨様、中野区議会議長 いでい 良輔様の祝辞がありました。

- ① 「送る言葉」 在校生合唱「心の中にきらめいて」
- ② 「別れの言葉」・卒業生合唱 「大地讃頌」「旅立ちの日に」「南風」

◎ 弓田 豊 校長 卒業式 「式辞」

- ① 2年前、皆さんが、第一学年を終了しようとしていた頃です。皆さんのお仲間の、一人が学外に転居する。学外へ転居すれば、規則で転校をしなければなりません。保護者は、わが子が引き続き十中に通えるよう教育委員会に指定校変更の申請をします。その申請書の理由書欄にはこう書かれていました。「十中最後の卒業生になりたい。」という本人の強い希望。本人の強い希望が叶い卒業式に臨んでいる。
- ② 十中は、給食を日本一美味しく食べる学校。昨日も残食はゼロでした。1年の時から完食をし、他学年の給食まで食べる徹底ぶりでした。皆さんの「給食」への意欲と態度は、後輩に受け継がれ、十中は、他に例を見ない、残食ゼロ学校という快挙を遂げるに至りました。
- ③ 校長面接の時。皆さん全員に中学校3年間で最も印象に残ったことを尋ねました。一番多かった回答は運動会。特に、大ムカデを終えた後、学年全員涙を流し円陣を組んだことを、最高の思い出に挙げた人が多くいました。皆さんは、競技中こそ、A・Bで勝利を競い会いましたが、競技を離れると、常に「ノーサイド」でした。

- ④ 学年だよりには、こう記載されていました。

「十中最後の運動会は、感動と感謝にあふれた涙の運動会となった。3年生は、底抜けに明るく、仲良く過ごしていた。また圧倒的な存在感を1・2年生に示し、そのMissionをしっかりと果たした。こんな立派な3年生が、かつていただろうか。孫重思いが何度も頭をよぎった。十中最後の卒業生にふさわしい、素晴らしい集団だ。

- ⑤ 合唱コンクールでは、仲間同士の争い、皆さんには無縁でした。

コンクールでは、全校で金・銀を競いましたが、皆さんの力強く美しいハーモニーに、他学年はなすすべがありませんでした。

「連合音楽会に3年生で参加する学校はない。」

学年だより「君たちが参加する目的は、合唱を通して、十中最後の卒業生の姿を示すこと。当日、君たちは、ゼロのステージに立ち美しく力強い歌声を会場に響かせ、観客は心から感動した、ほとんど十中の保護者であった。

- ⑥ ここに1冊の本があります。

この本は、太平洋戦争に翻弄された当時の小学校の体験記です。

作者は、終戦翌年の1946年、桃園第5尋常小学校、今の塔の山小学校を卒業された方々です。

「我々が世の中に貢献する時代はすでに終わった。今後、世の中が、どう変わろうとも、もう我々の出番はない。ただ、我々は戦中戦後を必死に生き、現在の繁栄基礎を築いた世代であることをささやかに告げ、消えていきたい、と結ばれている。戦後、72年が経過し、近い将来、「人生百年時代」が到来するといわれています。」その百年時代を、希望に満ちたあかるく、平和な時代とするのは、戦中戦後を生き抜いた方々でもなく、の保護者でもありません。

ほかならぬ、皆さんには、その責務があります。なぜなら、皆さん十中生は「背には時代を負って」いるのです。

さて、物語には、始まりと終わりがあります、終わらせたくない物語もあります。

わけても皆さんが十中で繰り広げてきた「感動と成長のドラマ」を終わらせたいと思う人がどれだけいるのでしょうか？

しかし、卒業証書が授与されたということは、皆さんの十中でのドラマが終わるということの意味します。明日からは、皆さんを支え、導いてきた十中の先生方は皆さんのドラマには出演しません。

ドラマといえば、今年度を「十中劇場の再終幕」と例えました。

皆さんは、十中劇場という舞台で主役を見事に演じ切りました。皆さんは、今日、十中劇場での主役を終えますが、すでに次のドラマでの主役が用意されています。それは、人生

というドラマの主演です。

このドラマは自分で脚本を書き、自分で演出していかなければなりません。

それが義務教育を修了するという事です。

本日、義務教育修了する皆さんが、今後遭遇する様々な困難や苦悩に屈することなく、人生の主演を演じてくれることを願い、私の座右の銘である、「あなたは人生の脚本家であり、主演である」をはなむけの言葉として贈ります。

さて、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

数多の泣き笑い、喜怒哀楽を重ね、義務教育最後の日を迎えられたお子様の成長に、感激もひとしおのことと思います。

本校も、お子様の成長を支援してまいりましたが、至らない点も多くありました。

しかしながら、温かいお力添えを賜りましたことに、心よりお礼を申し上げます。

皆様のお子様は十中の希望であり、誇りであり理想でした。十中でお子様めぐり会えて幸せでした。

また、ご来賓の皆様には、ご多忙の中、卒業式にご臨席いただき感謝申し上げます。

本日、十中最後の卒業生75名が自立の道を歩み、時代の担い手となるには、まだ時間がかかります。どうか、今しばらく彼らを温かく見守りいただくようお願い申し上げます。

結びに、中野区立第十中学校62回生の前途に、幸多からんことを心より祈念し、校長「式辞」といたします。

平成30年3月16日

中野区立第十中学校長 弓田 豊

以 上